

12冊は確保すべきである。掲載論文の幅を広げる必要あり。

＜いずれの学会においても実情は厳しい、各学会誌の統合の可能性も探ったかどうか。

＜理事会、評議員会のみではなく、議論する場を広げる必要あり。

＜学会のポリシーの見直しも必要。

＜現実的に日本語論文は若い会員の業績に繋がらないという意見もあるが、日本語で論文を書くことはたいせつで必要なことでもある。

## 7. その他

1) Island Arcの二重投稿問題について、I.A.編集委員会より報告を受け、下記の処置について了承した。

・対象となった3論文はリジェクトとする。

・当該著者を筆頭とする論文は、今後5年間はIsland Arcへの投稿は禁止とする。

・当該著者を本特集のfirst editorからは外す。

2) 事務局職員の勤続表彰規定について

・運営財政部会長上砂理事より勤続表彰規定案が提案され、了承された。

・副賞については、会計委員会で検討する。

3) 次回(4月7日)評議員会議題の追加の有無確認をし、次のように決定。

1. 2006年度決算(案)および2007年度予算(案)、2. 各賞選考結果について、3. 名誉会員候補者の推薦、4. 日本地質学会プライバシーポリシー、5. 地質学雑誌の出版について、6. その他

4) AGUの若手の賞として故柵山雅則氏の名が候補となっていることについて、木村純一会員から、参考意見を求められた。

木村会員から、AGUに地質学会の「柵山賞」についての状況を説明、連絡していただくこととし、以後はAGUの判断することとした。

なお、この機会に、英語名は「The Geological Society of Japan Sakuyama Masanori Award」、同じく「小澤賞」については、「The Geological Society of Japan Ozawa Yoshiaki Award」とすることとした。

## 2006年度 第11回理事会 議事録

2007年4月27日

日本地質学会 会長 木村 学

期 日: 2007年4月7日(土)

10:00~12:30

場 所: 北とびあ 901会議室

出席者: 木村会長、伊藤副会長、佃副会長、

渡部常務理事、天野副常務理事、上砂・Wallis・大友・公文・倉本・中山・久田・宮下・向山 各理事、三宅評議員会議長、新井田副議長、橋辺(事務局)

欠席理事: 狩野・高橋・増田 各理事

\* 成立員数(12/17)に対し、出席者14名、委任状2名、欠席者1名で、理事会は成立。

## ○報告

1. 運営財政部会(部会長-上砂, 中山, 向山, 大友)

総務委員会(委員長-上砂)

庶務関係(担当理事-上砂)

・筑波大学朝永振一郎記念「科学の芽賞」の後援依頼を了承した。

・富士学会第6回シンポジウム(6/3日)の後援依頼を了承した。

・科学教育研究協議会54回全国研究大会の後援依頼(8/3-5日)を例年通り了承した。

・事務局の勤続表彰制度について、具体的な表彰内容について検討した。

会員関係(担当理事-中山)

1) 入会の承認

正会員(1名): 工藤幸久

院生割引会員(1名): 藤原伸也

準会員(2名): 早川達也, 森 政蔵

2) 退会者(3月末にて)

向井正二郎, 友杉貴茂, 金子弘二, 佐藤浩, 久島紘樹, 藤江 力, 野池耕平, 竹林慶謹, 岩井隆昌, 栢本尚之, 橋本富美江, 吉田春香, 伊藤彰彦, 富樫幸雄, 山崎憲一, 甕川敏暢

3) 逝去者(2名) 赤嶺秀雄(3月20日), 多井義郎(3月28日)

4) 3月末現在会員数

賛助34, 名誉74, 正4,289(内, 282院割), 学生45, 合計数4,442(昨年比 -80)

5) 3月27日に会員減少の歯止めと増加の対策について総務・会計担当を交え検討をおこなった。

6) 07年度50年顕彰会員(19名)

阿部 宏, 石崎国熙, 石田正夫, 井上茂, 猪間明俊, 大熊欽一, 大八木規夫, 沖村雄二, 笠原芳雄, 白井 亨, 白波瀬輝夫, 高橋 一, 長谷川 正, 藤田 崇, 堀越 叡, 本多谷雄, 松島義章, 吉澤壮夫, 吉羽興一

関連学会連合(担当理事-天野)

・地質科学関連学協会連合

「地質の日」提案発起人会を開催、5月10日を候補日と決めた。地質学会として実行委員会に委員を推薦する。委員の候補者を藤本光一郎(主), 斎藤 眞(副)とし、本人の承諾を得た後に推薦することとした。

・地理関連学会連合

3月19日(月)連合総会出席の報告

地球惑星科学連合(久田連絡委員)

・木村会長から、連合の体制や学術会議への対応などについて報告された。

・国際地学オリンピック小委員会(久田委員)報告

科学オリンピックに来年から地学も参加することとなり、JSTから準備金がでる。

4月に韓国で開かれる第1回の地学オリンピックは視察のみ、日本は第3回から参加する予定。

学術会議関係報告(木村会長=連携会員)

・木村会長から分科会の活動などについて報告があった。

会計関係(担当理事-向山)

・06年決算案, 07年予算案 について説明

・国際賞受賞者の招待に関し、旅費等の手当てについては、各賞検討委員会からの要請に応えることとした。

・今後の会員減少・会費減少の見直しなどをデータに基づいて検討した結果を説明した。

広報委員会(担当理事-大友)

ニュース誌編集小委員会(担当理事-大友)

・ニュース誌写真の投稿規定およびホームページへの投稿規定(案)を策定

インターネット運営小委員会(委員長-坂口有人)

・ホームページのリニューアル進行状況報告

・会員情報の閲覧、修正プログラムの採用について提案があり、これについては総務部会で、引き続き検討を進めることとした。

2. 学術研究部会(部会長-久田, 公文, 増田)

行事委員会(久田委員長)

1) 札幌大会関連

・就職活動支援プログラム案, その他について

・札幌教育大学に後援依頼を出した

2) 2008年, 秋田大会の開催日は9月20-22日に決定, 新しく発足する鉱物学会との共同開催の日程については, 現在岩鉱学会と鉱物学会で検討中。

3) 2009年は, 西日本支部に開催を依頼, 岡山大学での開催が決定した旨, 西田支部長から連絡があった。

3. 編集出版部会(部会長-狩野, 久田, 宮下, Wallis)

地質学雑誌編集委員会(委員長-狩野 副委員長-久田, 宮下=企画担当)

今月の編集状況(4月5日現在)。

113-3: 論説3・短報1・口絵1(50p発行済み)

113-4: 論説3(約40p)(校正中)

113-5: 論説4(入稿準備中)

2007年度投稿論文総数26編 [論説12 (和文12), 総説7 (和文7), 短報6 (和文5 欧文1), ノート1 (和文1)] 口絵3 (和文2 欧文1) ※うち16件が電子投稿  
投稿数昨年比 +5 査読中42編  
・紀伊半島特集号は全9件のうち8件が受理。残り1件査読中。  
・地学教育関連の特集号が投稿された

Island arc編集委員会 (担当理事-Wallis, 事務局長-竹内圭史・角替敏昭)

#### 1. 編集状況

2007年16巻の年間契約ページ数576 (～最大620) p

1号 Pictorial 1編, 特集6編, 一般8編, 訂正1p+白紙, 計210p.

18年度では計画540pに対し537p.

2号 一般7編104p入稿済み。前半4編はOnline Earlyで公開済み。

3号 5月末受理のフィリピン海特集9-10編が入る予定。入稿期限は6月末。

計画1号: 一般8編127p+特集6編79p+口絵3p+白紙=210p

2号: 一般7編104p+Editorial (2)p=(106)p見込み

3号: 一般2編30p+フィリピン海特集9編135p=165p

4号: 一般6編90p+Index等2p=92p 総計573p/契約576p

#### 2. 特集

フィリピン海特集: Guest Editors小原・徳山・石渡・Stern

11編投稿済み, 9編受理を見込む。3号掲載予定。

板谷特集: G E板谷・Sajeev・Wallis

2編投稿済み, 全15編予定。17-1号掲載を見込む。

(坂井特集): GE坂井

全13編, 紙投稿済み。内容確認中, 特集をやめ一般論文とする見込み。

久田特集: GE久田・Yumul

全28編予定。分量が非常に大きいため扱いを検討中。

#### 3. オンライン投稿

07年3ヶ月で新規投稿22編 (特集12編, 一般10編) あり好調を維持。

システムへの登録: 総数340名。著者173名+査読者98名+編集関係者68名 (うちGuest Editor 6名)。

#### 4. Publisher's Report 2006の説明 (抜粋)

・2006年におけるIARの大きな変化は, カラーデザインの変更とpictorial sectionの導入。

・2005年のインパクトファクターは1.167と過去最高になった。2006年の値は現在計算中。pseudo impact factorは計算できるので, おって連絡する。

・オンラインでの論文のダウンロード数は24,372件であり, 前年比52%の増加となった。アクセスの上位10位はすべて14-4, 15-1のオフィオライト特集。

5. 今後の科研費出版助成金について検討した。

・平成19年度より直接出版費の見積書が必要となる。競争入札を行い, 最も安く入札した業者の金額をもとに交付申請書を作成しなければならない。

・IARの場合, 2009年以降は競争入札を行わないと科研費が交付されない可能性がある。この問題については今後継続して検討する。

#### 6. Island Arc賞について

・Island Arc賞の賞状はブラックウェル社が作成することを確認。

#### 7. その他

・BlackwellとWileyは今年2月に正式に合併した。日本のオフィスは初夏頃に移転する。

#### 8. アイランドアーク誌への二重投稿について, 経過報告があった。

Island arc連絡調整委員会 (委員長-会田, 担当理事-Wallis)

・アイランドアーク科研費平成18年度の実績報告書 (総ページ560p.) を提出した。

・平成19年度科研費申請が採択された (370万円)。

企画出版委員会 (担当理事-高橋)

・箱根リーフレットの作成に当たり, 神奈川県博に協力依頼状を出した。

#### 5. その他

地質災害委員会 (担当理事-天野)

・地球惑星連合大会の「能登半島地震」緊急セッションの共同提案者として参加することとした。

【以下, 評議員会の下での委員会】

名誉会員推薦委員会 (伊藤副会長)

・名誉会員候補者として1名の推薦があった。選考のうえ, 評議員会に推薦することとした。

各賞選考委員会 (委員長-酒井治孝)

・各賞選考結果を評議員会に諮る。

地質学会賞1名, 国際賞2名, 柵山賞1名, 論文賞2件, 研究奨励賞2名, 学会功労賞1名, 学会表彰1名

法人化実行委員会 (委員長-齊藤靖二)

・齋藤委員長からの報告 (→木村会長)

現状は, 旧法による文科省の認可手続きを待ちが続いている。文科省に対し, 今後の見通しの問い合わせなども行っているが, 返事がない。

平成20年から実施される新法律では, 一般社団法人及び一般財団法人となった後, 公益性についての審査を受けて, 公益性が認められれば, 税制の優遇などがある公益社団法人及び公益財団法人となることができる。旧法で法人となっている団体の公益性が自動的に認められるの

かどうかについては今のところ不明とのことであるが, 今後の審査を考慮すると, 地質学会としては旧法での認可に期待したい。

法務委員会 (担当理事: 委員長-上砂)

Webサイトの投稿規程案について内容を検討し, 修正案を作成した。

#### ○審議事項

1. 2007年度事業計画案文について検討し, 評議員会に提出することとした。

2. 札幌大会, 見学旅行下見費用の負担について準備委員会からの申し出を検討した。

現状では, 案内者の申し出による下見代の全額を負担できるという状況にはなく, 案内者が遠方の場合, 下見の回数や人手なども工夫していただくことしたい。

札幌大会においては, 予算上は30万円を計上し, この範囲内で各案内者にたいし応分の支給をしていただく。どのように支給するかについては, 見学旅行担当者に任せる。

3. 事務局の勤続表彰制度の具体的な表彰内容, 勤続年数に応じて褒賞およびリフレッシュ休暇などについて, 総務部会案を了承した。

4. 評議員会議事進行の確認をした。

## 2006年度 第4回 定例評議員会議事録

2007年5月2日

日本地質学会 議長 三宅 康幸

副議長 新井田清信

日時: 2007年4月7日 (土)

13:00-17:45

場所: 北とびあ 901会議室 (東京都北区王子1-1, 京浜東北線 王子駅下車1分)

出席者: 木村 学会長 伊藤谷生副会長 佃 栄吉副会長

(評議員27名) <留任> 阿部国広 安間 恵 磯崎行雄 永広昌之 納谷友規 新妻 信明 保柳康一 三宅康幸 矢島道子 山路 敦 脇田浩二

<新任> 浅野俊雄 足立勝治 安藤寿男 石垣 忍 石渡 明 井龍康文 岡 孝雄 小山内康人 紺谷吉弘 酒井治孝 徐 垣 新井田清信 針金由美子 松岡 篤 松田 博貴 丸山茂徳

(理事10名) 渡部芳夫 天野一男 上砂正一 大友幸子 宮下純夫 公文富士夫 倉本真一

中山俊雄 久田健一郎 向山 栄

(事務局) 橋辺菊恵

欠席者 評議員 (委任状7名): 荒戸裕之 国安 稔 柴 正博 田近 淳 井内美郎 加藤 進 渡辺真人

欠席者 評議員 (委任状なし6名): 会田信